

埼玉県 あっぶるさんによる日光市除染の状況報告 その4

今回の除染作業現場を見て・測定してみて、、、。

滞在時間約五時間という限られた中で思ったような作業が出来ませんでした。日光市の放射線量の大きさを再確認しました。ただ空間線量が高いという事だけでは説明しきれない日光地域の実情。それは、とてつもなく大きな線源があらゆる所に存在する事で一番厄介な事！！日光は自然豊かである事。無数の杉林がありそれが仇となっている皮肉な側面。

皆さんもご存じの通り、木の葉も放射性物質のスポットとなり易いものです。表面積の大きな杉の葉には特に溜まっている可能性があり、大きな線源になっていると考えられます。他の場所にも上記に限らず日光には多くの線源があることは間違いありません。

放射性物質は勝手に無くなってはくれません。その場所の数値が下がる事⇨放射性物質が移動した（移動させた）だけなのです。人為的・自然事象で移動するのです。



日光駅近くのスーパー駐車場苔の上
掘場 Radi PA-1000 1.712 μSv/h

大きな線源が無数に存在する日光では、いわゆる移染が常に起こっていると考えるのが自然ではないでしょうか。

この様な状況で、子ども達を日光に行かせる意味はありません。そして日光市行政の姿勢もその理由の一つです。日光市の言っている事を信じる事が出来ないからです。行政（国も含め）の言う事を未だに信じて（信じるしかないと思っている事も同じ）子どもに間違った行動をさせようとしている保護者の皆さん、後悔しないよう行動してください！今からでも遅くありません。皆さんの今現在できる限りの防護を子どもにさせて下さい。

放射能汚染問題はこれから先もずっとずっと続くのですから。

（ちょっと話がそれましたが・・・）

では、どうすれば良いのか？と考えると、継続的な除染作業は勿論の事、正しい情報を公表し、私達国民（市民）が自分で判断できるようにすること。そして、どこで測定しても法で定めるところの年間被曝限度 1 mSV 未満にすること。日光の様に汚染度の高い所へは特にそうならない限り子ども達をその場所にわざわざ行かせるような事をしてはいけないのです。日光修学旅行は、子ども達をわざわざ危険な日光に行かせるということになります。修学旅行先は、校長先生の一判断で変更可能なのですから・・・。

重なりますが、放射能被曝に関して自分の子どもは自分で守るしかないのです。現状、国や教育委員会そして先生達は放射能から子どもを守ってくれませんので。

以上
あっぶる家より

<http://usakawai.air-nifty.com/blog/2012/09/post-005e.html>

AAK山村より一言

あっぶるさんの学校は、修学旅行先が、箱根へと変わりました。保護者が子どもを思う気持ちが学校を動かしたのだと思います。

あっぶるさんの仰る通り、学校長の判断で子どもたちの健康を守る事ができます。どうぞ、保護者の皆さん、日光への修学旅行問題について、「あきらめず」に取り組んで下さい。日光の子どもを守る会の大島さんは言いました。「日光市の子どもたちは（修学旅行生も含めて）日光市が安全であるという風評被害に苦しめられている」と・・・